

平成 29 年 11 月 27 日

## 拓殖大学 講義要項作成要領

講義要項（シラバス）は、中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」において、「学生が授業の予習復習を進めるための基本となるもの。また、授業の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整等に使われる」ものと定義されています。さらに同答申では、単位制度の実質化に向けた具体的な改善方策として、①シラバスに予習復習の内容や目安となる学修時間等についての具体的な指示を含むこと、さらに②シラバス内容が適切なものとなっているかを調査・検証することなどが提言されています。

以上を踏まえ、本学は、「単位制度の実質化」に向けた取組の一環として、講義要項の充実を図るとともに同要項のチェック体制を確立することとしました。

授業をご担当される先生におかれましては、以上の趣旨をご理解いただき、本要領に基づき、講義要項を作成くださいますようお願い申し上げます。

◎入稿期限：平成〇〇年〇月〇〇日（〇）までに「確定・終了」状態にしてください。

<講義要項入力項目>

### 1. 授業の目的【80 字以上～100 字以内】

授業の概要及び教育目標を記載してください。

例：本授業は、〇〇〇〇について理解し、〇〇〇を身につけることを目的とする。

### 2. 授業の到達目標【80 字以上～100 字以内】

(1) この授業を通して学生が身に付けるべき、知識、技能、資質、能力などの目標を記載してください。

例：本授業は、〇〇〇を理解し、これを用いて〇〇〇ができることを到達目標とする。

(2) 学生が自らの課程を通じた学修成果を把握させるために、「卒業認定・学位授与の方針」と当該科目との対応関係を明示することが重要です。到達目標の中で、別添の「カリキュラムマップ」（◎印が付いた DP）に基づき、次のとおり、その対応関係を最終行に記載してください（ただし、教職課程、社会教育主事講座及び日本語教員養成基礎講座は、除く）。

例：なお、この科目は、以上を学ぶことにより、「卒業認定・学位授与の方針」の中で謳う「幅広い教養」を身につけるための科目である。

### 3. 授業計画：各回テーマ・内容【各回：30字以上～90字以内】

(1)「授業計画」は15回分（通年科目は前・後期各15回）を必ず記載いただき、その内容は、学生が授業内容を理解できるように「毎回の授業内容」を詳細に明記してください。

(2) 学生の学修意欲を高めるため、学修状況を学生にフィードバックすることが重要です。授業計画の中で、課題（試験やレポート）に対するフィードバック等への対応を記入してください。レポートの場合は、レポートを返却し解説すること、試験の場合は、「小テスト及びフィードバックとしての振り返り」「学期試験及びフィードバックとしての解説」等を行うことを記載してください。

なお、文部科学省のシラバス記載要領では、「試験のみの授業回は認められない」とされています。従って、学期試験のみの記述はできませんので、例えば「学期試験及びフィードバックとしての解説」と記載してください。履修者が多数の試験又はレポートで個別のフィードバックができない場合は、解答例などの全体的な概要解説が考えられます。また、定期試験で最終となり、学生への直接的なフィードバックを行う機会がない場合は、Blackboard や掲示などの活用 が考えられます。定期試験に関するフィードバックを記載する場合には、6.「成績評価の方法」の欄で後述してください。

例：5 フィードバックとしてのレポート返却及び解説

8 小テスト及びフィードバックとしての振り返り

15 学期試験及びフィードバックとしての解説

### 4. 授業の方法【80字以上～120字以内】

講義、演習、実技、実験等の授業形態及び授業方法の工夫などを記載してください。

例：本授業は講義形態を基本としていますが、授業計画ごとのテーマについて発問を行い、学生の思考を引き出し、理解を深める方法を採用します。

### 5. 予習・復習【80字以上～120字以内】

大学設置基準の単位計算では、教室内の授業時間と教室外での学修時間をあわせて45時間に対して1単位と定められています。単位の計算方法は、科目の種類によって異なり、原則として次のとおり計算されます。

なお、前述の「予習復習」には、学生の主体的、発展的な学習活動も含まれます。

単位の計算基準

授業形態	単位	授業実施	授業時間	予習復習時間	合計時間
講義・演習	1	15週	15～30時間	30～15時間	45時間
実技・実験・実習	1	15週	30～45時間	15時間	45時間

※単位計算上、一つの授業（1コマ）90分を2時間とみなし計算します。

以上の単位制度の趣旨を踏まえて、当該科目における予習復習に必要な時間又はそれに準じる程度の具体的な学修内容を記載してください。

例：予習は、授業計画ごとのテーマについて、教科書・参考書等を読んで意見をまとめてくる。復習は、授業内容・配付資料を基に要点を整理し、まとめておく。

#### **6. 成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）【80字以上～120字以内】**

成績評価は、学期試験、レポート、授業への取組などの評価項目を明示してください。さらに、個々の評価項目に対する占める割合（%）を記載してください。なお、授業に出席することが前提となりますので、「出席点」という表現は避け、例えば「授業参加度」「授業態度」といった内容としてください。

例：成績評価は、学期試験〇〇%、レポート（2回）〇〇%、授業での発表〇〇%の割合で評価する。なお、定期試験のフィードバックは、Blackboardを通して行う。

#### **7. 教科書・参考書【3行まで：教科書、参考書別に記載】**

授業で使用する教科書、参考書などを記載してください。教科書を使用せず、各回で資料を配付する場合や、授業で使用しない参考書の紹介の場合は、その旨を記載してください。

#### **8. 関連する科目【40字以上～50字以内】**

教育課程の順次性、体系性を考慮して、前段階、同時、次段階に学修することが望まれる関連科目を記載してください。

例：本授業の履修には〇〇〇科目を修得していることが望まれる。

#### **【講義要項のチェックについて】**

平成30年度「講義要項」より、全ての科目について、以上の要領に基づき作成されているかを、学部等で確認を行います。その結果、必要な場合は担当教員に加筆修正を依頼することがあります。

以 上